

(5) 文章修行

中学校時代は、丸山の文才が花開きはじめての時期でもあった。1年生の頃、江島への遠足の光景をつづった作文「広島遠足 一年丁」が『学友会雑誌』第93号に掲載されたのを皮切りに、初夏の風景をつづった「夏来る」(第95号)、世相を批判した前述の「矛盾」などの作文を生んだ。さらに文芸方面にも手を伸ばし、英詩を『学友会雑誌』に掲載したり("Ononotofu and the Frog"『学友会雑誌』第101号)、非正統派グループで作った同人誌に戯曲を書いたりした。丸山の文章は周囲にも認められ、5年次の軍事教練では配属将校の永沢少佐から「従軍記者」に任じられ、御殿場での教練の様子を記録している(「富士裾野発火演習記事」『学友会雑誌』第102号)。これには母セイは大喜びだったという。また、作詞した歌を学校に寄贈した。丸山の文才は開花の時期を迎えていたが、その方向性は未だ定まっていなかったといえよう。(丸山眞男『休暇日誌』〈丸山文庫資料番号 341-6〉)

